

(様式11)

## 博士学位論文審査結果要旨

西暦 2022年 3月 3日

研究科、専攻名 バイオ・情報メディア研究科 ーメディアサイエンス専攻

学位申請者氏名 アルトルキスターニ ムアタバル

論文題目 Investigating the Historical Milestones and the Future of the Saudi Female Education Development

### 審査結果の要旨

2022年3月2日に、学位申請者 アルトルキスターニ ムアタバルの学位審査公開発表会が開催され、質疑応答が行われた。

本研究はサウジアラビアの女子教育に関する現代史における変遷と形成の解釈研究を、アラビア語の政府公文書の文献調査と質的調査を通じて行っている。

本研究の背景として、国連で2015年に採択された持続可能な開発目標2030 (SDGs) の目標4 質の高い教育の普及、目標5ジェンダー平等の実現が挙げられる。SDGsと同様に、サウジアラビアビジョン2030の策定においても、高等教育やジェンダー平等が国家目標の一環として取り入れられている。サウジアラビアは経済成長とともに教育の平等化が進み、2018年の段階でクウェートやカタールなどの中東のイスラム国と同様に、女性の平均教育年数は12年から14年とヨーロッパのドイツやイギリスなどの先進国と肩を並べている。

教育の平等化が進んだもののその変遷に関する解釈研究は進んでいない。更に、現代史における女子教育に関する変遷の形成を、フェミニスト理論の観点からまとめた研究は、存在していない。サウジアラビアの女子教育に関する比較教育の研究は、イスラム文化圏の風習に理解の乏しい英語の文献が多だけでなく、アラビア語で書かれた文書の多くはイスラム宗教のリーダーと呼ばれる男性宗教家によって書かれた歴史的な公文書が主である。そこで、本研究では、女性教育者達の経験や視点から、女子教育の変遷と形成の解釈を目的とした質的調査を行い教育の将来像を探る。

本研究の第1フェーズの目的では、サウジアラビアの女性教育の発展における重要なマイルストーンを明らかにした。特に質的調査の第1フェーズでは、アラビア語で書かれた公文書を主とした、文献調査よりを行った。その結果、7つのマイルストーンを明らかにした。1959年に始まった女子教育の立ち上げ時期の教育政策をはじめとし、成人教育、高等教育、奨学金制度など、サウジアラビアの教育界に大きな影響を与えた出来事を明らかにした。女子教育者を対象に、女性の視点による歴史的解釈を目的としたインタビューを行った。7つのマイルストーンに関する、見解のデータ収集を目的とし、合計6回のインタビュー調査を行った。

第2フェーズでは、近年、新たに政府が理系の女子高等教育に導入した、ICT教育の現場 TATWEER Program (TP) の参与観察による調査と女性教育者達のインタビューを行っている。第2フェーズのデータ収集では、参与観察、フォーカス・グループを用いた。複数のTPの参加者のグループに対して、インタビュー調査を行った。

本研究の結果、インタビューでは、1959年、女性教育確立のための政令が最も重要であったとの見解が共通で見られた。奨学金制度も大きな影響を与えた出来事であったとの見解があった。インタビューの結果、公文書や7つのマイルストーンに挙げられていない、女子教育の伝統的な形体として1950年代に、Katateebが存在したとの証言が多数あった。これは、家庭やコミュニティで女性同士がイスラム経典のコーランや基本的な読み書きを女の子に教えるというものである。その他にも、国内で女性が教育する公教育が存在しない時代に海外で教育を受けた事例なども挙げられている。更に、奨学金制度ができたために高等教育を受けることが出来たという女性も証言もあった。英語の先行研究とは異なり、イスラム教が理由で教育を受けられないということではなく、1959年の女性教育確立の政令がイスラム教に基づく政令であり、女子教育を奨励していたことが証言により明らかになっている。この政令が確立したことにより、女の子を学校へ通わせる契機となり、家族の同意を得やすくなったとの証言がある。

第2フェーズの調査の結果、現在、国家は特に理系女子教育に力をいれており、ICTを活用した教育環境が整っていることが述べられている。現在では、女子高等教育の環境はサウジアラビアでは、急速に整いつつある。女性の専門職の育成が進められており工学教育に現場においては、女性が自らICTを活用するだけでなく、大学をマネジメントするためのプロフェッショナル人材の育成が今後の課題として挙げられている。

本研究は、他の先行研究にはない観点での調査、考察、提言という新規性を有している。特に、サウジアラビアの女子教育の発達は西洋諸国の教育開発と文化的にも異なる部分が多いためか、中々、実情が把握しづらく、憶測による解釈がなされがちである。その中、本研究はアラビア語での公文書の分析を補強する形で女性教育者達の貴重な証言、更に、現在進行中のサウジアラビア特有の女子理系高等教育の発展の在り方とその課題が語られている。特に、サウジアラビアは義務教育の小学校から高等教育まで医学部を除きすべて、男女別学の独自の女子教育の発達を遂げている。日本が共学制度を取り入れるようになったのは1947（昭和22年）年制定の教育基本法以後のことである。それ以前に、教育改革者が女性教育者の中から多数生まれた。サウジアラビアだけでなく、その他の独自の文化を持つ多くの国の女性教育の先駆者達が参考にできる内容が本研究には示唆されている。

学位審査公開発表会における発表および質疑応答も妥当であった。また学位審査に先んじて実施した最終試験の結果も十分な成績を収めた。本研究成果は、サウジアラビアの教育開発さらには比較教育学、全般に貢献することが期待されるので、学位論文に相応しい内容と認め、学位論文の受理および、博士（メディアサイエンス）の学位を授与する価値があると判断した。

審査委員 主査

東京工科大学 教授 柿本 正憲